



家畜の衛生管理状況等の報告（定期報告）について



昨年度の家畜伝染病予防法の一部改正により、家畜の所有者は、年1回、家畜の飼養状況と衛生管理状況を家畜保健衛生所に報告することが義務付けられました。

当所では、管内のすべての家畜所有者から報告をいただけるよう、市町村、農協、診療獣医師等関係機関のご協力を得ながら周知を図り、報告を促してきました。その結果、24年は90%を超える家畜所有者から報告をいただくことができました。

また、皆様からの報告と並行し、飼養衛生管理基準の遵守状況を確認するため、牛飼養農場は5年に1回、豚・鶏（100羽以上）飼養農場は年1回の農場巡回を実施しています。

今回は、家畜所有者の皆様からいただいた報告内容とこれまで実施した農場巡回の結果を踏まえ、飼養衛生管理基準の各項目（次ページ表参照）の遵守状況や取り組み状況の一部をご紹介します。



農場立入者の記帳・保管について（表の6）

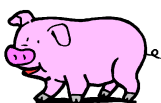
牛・豚の飼養農場で今後の定着が必要です。万が一の家畜伝染病発生の際は、**感染ルート、疫学関連家畜・物品等の早期特定につながります。**



乳用牛および肉用牛飼養農場の衛生管理

家畜防疫に関する最新情報の把握、野生動物からの侵入防止、家畜の健康観察及び異常発見時の対処については、概ね半数以上の農場で実行されています。

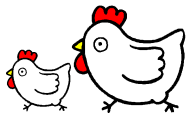
しかし、**衛生管理区域への病原体持込防止**、特に**農場立入者の確認**（表の2③）、**他の畜産施設で使用した物品の洗浄消毒**（表の2④）、**体液付着物品の1頭ごとの交換・消毒**（表の4②）については、今後、農場のほか畜産関係者を含め、**意識して取り組まれるようお願いします。**



豚飼養農場の衛生管理

各項目とも、概ね80%以上の農場で取り組まれており、日頃からの防疫意識の高さがうかがえます。

一部、巡回時に、**踏み込み消毒槽が設置されていない**農場が認められますので、侵入防止の観点から、**早期の改善が必要です。**



採卵鶏・肉用鶏飼養農場の衛生管理

豚同様、各項目とも、おおむね80%以上の農場で取り組まれており、日頃からの防疫意識の高さがうかがえます。

昨年度の巡回時には、数件ですが、「鶏舎の金網・防鳥ネットの破れ」、「入場者記録の不備」、「入場制限の不徹底」等の不適切な事例が認められました。

再巡回により、改善を確認していますが、金網等の破れは、野鳥等の野生動物の侵入を許し、鳥インフルエンザ等発生の原因となりますので、こまめな点検・修繕を心がけましょう。

**渡り鳥が来る前に
鶏舎の点検を！**



(表) ～ 報告における飼養衛生管理基準の遵守状況 ～

衛生管理項目(定期報告書の様式7)	遵守農場の割合(%)				
	乳用牛 (172戸)	肉用牛 (475戸)	採卵鶏 (44戸)	肉用鶏 (247戸)	豚 (53戸)
1 飼養家畜に関する最新情報の把握	66	60	95	100	100
2 衛生管理区域への病原体持込防止					
①農場出入者の手指の洗浄、靴底消毒	61	50	98	100	94
②専用衣服および靴の設置(*)	-	-	100	100	100
③農場立入者の他畜産施設への立入・海外渡航確認、立入制限	40	35	80	83	94
④他畜産施設で使用した物品の洗浄消毒	41	32	98	100	98
3 野生動物からの病原体					
①家畜の飲用に適した水の給与	70	63	98	100	100
②防鳥ネットの設置と修繕(**)	-	-	98	100	-
4 衛生管理区域の衛生状態確保					
①畜舎・器具の定期的清掃・消毒	65	44	100	100	100
②家畜の体液付着物品の1頭ごと交換・消毒	47	23	100	100	89
5 家畜の健康観察と異常が確認された場合の対処					
①異状が確認された場合の獣医師の診療・指導	73	69	84	100	98
②毎日の健康観察	75	69	100	100	100
③移動出荷家畜の健康確認	71	67	100	100	100
6 感染ルート等の早期特定のための記録の作成及び保管	26	13	98	100	62

(*)：牛飼養農場では指導事項に加えられていません。
(**)：牛および豚飼養農場では指導事項に加えられていません。

職員紹介



獣医師 菅原 克

4月1日から新採用職員として、県北家畜保健衛生所に配属されました。新採用といっても、オジサンです。というのも、昨年度まで8年間、福島県にて家畜衛生業務に携ってきました。福島県では、主に細菌部門の病性鑑定をメインに仕事をしてきましたが、昨年度は、畜産関係の放射線業務のみならず、警戒区域内の牛・豚等の放れ畜についても対応し、現実を目の当たりにしてきました。言葉には言い表せない悲惨な現状でした。

転職理由としては、お察しのとおり、原発事故の影響です。私には、妻と子供2人いるのですが、事故後の福島県では、異常なストレス下での子育てでした。家では、高い線量に曝され、日頃なら子供の声で溢れている公園は人影もなく、保育園では外遊び中止、家の窓は開けられず、週末はなるべく低い線量へと移動する週末疎開の実施。このような状況を鑑み、私の地元である盛岡に移ったほうがよいのではないかと妻を説得して転職した次第です。思いもしなかった人生の方向転換であり、「一寸先は闇」とは、よく言ったものです。岩手県では、今まで培ってきたものを生かしながら、日々技術や経験を積み重ね、地域に貢献できればと思っております。見かけた際には、適当に声をかけていただければ幸いです。どうぞ、よろしくお願いいたします。



その豚、豚増殖性腸炎（PPE）による「痩せの大食い」ではありませんか？

PPEとは??

Lawsonia intracellularis（ローソニア イントラセルラーリス）という細菌が原因で、主に肥育期の豚に下痢を引き起こし、小腸や大腸の粘膜細胞の異常な増殖を特徴とします。

急性の出血性下痢を呈して死亡する急性型のほかに、元気消失や食欲不振、慢性下痢を呈する慢性型があり、近年では、**無症状で出荷され、と畜検査によって腸の病変が摘発される例が増加**しています。

国内の浸潤状況調査では、**約96%の農場に感染（抗体陽性）が確認された**との報告もあります。

見た目は健康でも、食べても太れない「**痩せの大食い**」状態かもしれません。

どうやって感染するの？

野鳥による汚染糞便の持込み

長靴による汚染拡大

床に残った糞便からの感染

母豚の糞便からの垂直感染

子豚同士の水平感染

ねずみによる汚染糞便の持込み

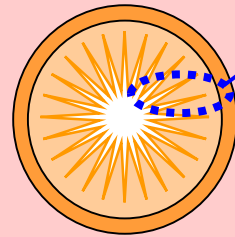
※ ローソニアは多いときで、**糞便 1g（1円玉）に1億個も**排泄されます。

※ 環境中では長期間生存できませんが、**糞便中では、20℃以下で2週間**感染力を保持することが確認されています。

※ **5℃以下の寒冷条件下（冬場）**は、さらに、**生存期間が長くなる傾向**にあります。

※ 熱に弱く、45℃程度の熱により感染性を失います。

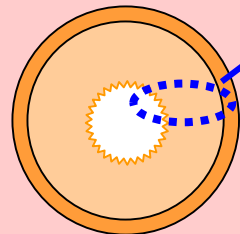
正常小腸の断面



小腸絨毛が長く、粘膜の表面積が広い

⇒ 栄養をたくさん吸収できる

感染小腸の断面



小腸絨毛が縮小し、栄養を吸収できない、未熟細胞が増殖

食べても太れない!

発症を防ぐための対策は？

- 豚舎単位、または豚房単位の**オールインオールアウト**を実施し、豚舎の**洗浄・消毒**（フェノール系消毒薬以外）を徹底しましょう。
- 定期的に**ねずみ**（発生農場での保菌率70%）の**駆除**を実施しましょう。
- 有効薬剤として、タイロシン、リンコマイシン、チアムリンなどがあります。**飼料添加**する場合の推奨用量（飼料1tあたり）
タイロシン 110ppm、
チアムリン 130ppm、
リンコマイシン 120ppm
- 本病の**乾燥生ワクチン**が1社から発売されています。

家畜保健衛生所からのお願い

～海外への渡航、海外からの訪問者にかかる注意～

8月中旬、管内において、口蹄疫の非清浄国であるアジア地域から牛飼養農場への視察訪問があり、家畜伝染病予防法の規定に基づき、入国者に対する畜舎等の衛生管理区域への立ち入りを制限した（貸し切りバスの車窓から降車せずに衛生管理区域内を視察してもらった）事例がありました。

海外からの家畜伝染病の侵入を防止するため、家畜伝染病予防法では第12条の3第1項、同法施行規則第21条、飼養衛生管理基準において、

- 過去1週間以内に海外から入国し、又は帰国した者を、必要がある場合を除き、衛生管理区域内に立ち入らせないようにすること
- 過去4ヶ月以内に海外で使用した衣服および靴を衛生管理区域内に持ち込ませないこと、やむをえず持ち込む場合には事前に洗浄・消毒その他の措置を講ずること

を定め、飼養者には、その遵守が義務づけられています。

各農場においては、このことを「農場立入者記録簿」に明記するなどして、常時、立入者に周知するとともに、**口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の非清浄国から訪問者を受入れる場合には、事前に、家畜保健衛生所に情報提供**をお願いします。

また、**非清浄国への渡航は自粛**し、やむを得ず渡航する場合は、**畜産関連施設や生鳥市場等への立ち入りは控えましょう**。帰国後は、飼養衛生管理基準に従い、①1週間は衛生管理区域に立ち入らない、②海外で使用した衣服、靴等を農場内に持ち込まないようお願いします。

海外での口蹄疫、HPAIの発生状況は図のとおりです。

